

(記入例)

別記様式第2号

しが多文化共生県民交流推進事業計画書	
主 催 者 名	〇〇〇〇協会
イ ベ ン ト 名 称	〇〇防災交流会
開 催 日 時	令和 8年 〇月 〇日 (日) 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
開 催 場 所	〇〇公民館 大会議室 (〇〇市〇〇2丁目〇〇-〇〇)
イ ベ ン ト の 内 容	防災ペア・ワークショップ： 日本人と外国人がペアになり、イラストを多用した「やさしい日本語」の資料を使って、避難所の場所や非常持ち出し袋のチェックリストを一緒に確認します。専門用語を使わないコミュニケーションを通じ、相互理解を深めます。 まち歩き安全点検（フィールドワーク）： 会場周辺を実際にペアで歩き、災害時に危険な場所や避難経路を点検します。「あそこは危ない」「ここに避難所がある」と、言葉と視覚の両方で情報を共有することで、いざという時の具体的な行動をイメージします。 非常食体験・共助コミュニティ会議： お湯だけで作れるアルファ化米などの非常食を一緒に作り、試食しながら交流します。最後に、日常の困りごとや「災害時にどう助け合えるか」を話し合い、顔の見える関係（共助ネットワーク）を築きます。 本事業により、①災害時に要配慮者となりやすい外国人住民の被害軽減、②地域全体の防災力（共助力）の底上げ、③多文化共生の推進といった成果が見込まれます。なお、事前・事後アンケートを行うことで、事業の成果を測定します。
参加人数（予定）	計 〇〇人
イ ベ ン ト の 新 規 性	従来の「文化紹介」中心の交流から一歩踏み込み、災害時における「共助」をテーマに設定しています。実用的な防災知識を共有することで、イベント後も地域で助け合えるネットワーク作りを目指す点が新しい試みです。
事務担当者	氏 名 : 〇〇 〇〇 連 絡 先 : 077-〇〇〇-〇〇〇〇/〇〇@〇〇.co.jp